

太田哲也 公明党市議団

多文化共生社会の 現に向けて

体制の現 てを伺う。 して 状と課 対 いる でする 外 題 支 国

は、 導を行 で 7 校、 児童生徒に対 H 本語: 語 導が必要な外国 員を配置し、 品学補助 和 6 って 教育適応学級 中学校 年 11 れして、 る。 員 度 で4 の不 小 課 日 学 校校 足 題指 人 本 担

ーショ が挙げ 保護者とのコミュニケ 外国 られる。 I人児童 生 徒 の

応

遣して対応して している。 校と家庭 や、 必 ンの 訳ツー で要な言語の 語 学補 年度 やさしい日 必 現状を伺う。 必要な場面-ルを活用を活用の翻訳 導入した 助 1 いる。 独アプ 員を派

> と伺っている。 多くの外国 0 保護者から大変好 の外国人児童生徒換する機能があり、 とポルトガ 付 ル 題 語名

をされた際に、安心し 外 て治療が受けられる体 問 来の受診や入院など 外国籍の方が救急

あいち医療通訳システ簡 健康推進課では、 サー スであ 責任 翻訳 は、 る。 用語 語に翻訳し対応してい ムにより、 また、 スマー ビス等を活 保険の付帯サー アプリや医師賠償 を含む文書を外国 る電 市民病院で 医療の専門 トフォンの 話医療通訳 用 ビ





千賀充能 自民党市議団 無所属の会

につい き が考える少子化 対策

7

を か。 伺 て う。 市 少 ま が子 , 考える 化の原 た今後 要因 の 対因に

伝 指 問

示

市

· 然災

害

へのの

情避

報 難

達

の

方

報

系

災行

自然災害対応につい

民に対してどのようにの方法を、平常時に市 それらの情報伝達

の 民

る。 女性 職 7 出 的 環 場 問 出 環 0 題 原 活躍 づく 切 会 境 Þ 因 れ 1 共 の機 0 ŋ 目 が 働 の支援、 て、 促 な 挙 き 公会の創れるの 進 等 経 13

区画整理事業では、公に考えているのか。 に考えているのか。 発や、就労の場づ 取り組んでいく。 め、用の 共 0 立 施 増 7 可 61 好 進 0) 就労の場づくり みたいまちの る。 な住 を一体 整 備と宅 について 企業用を進 企業用を進 企業用を進 テを い 用 中作 開

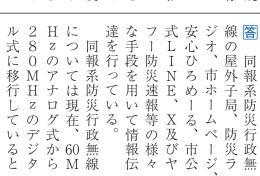
行いな 議を継 業庁とも を 実 L

ポー 8 会答 \coprod ことが重 地 \mathcal{O} 在 団 ク 年に向い ラ 加 今後の ・ツが ブ・サー 盟団 現 在、 活 体 動 方策 の していく。



企業誘致パンフレット

団体もある。部活動のに受け入れている既存団体など、中学生を既ポーツ少年団本部加盟 スポー 域ぐるみで整備する 議論を踏まえ、令和 り方検討委員会など がない種 ツ教室を実施す できる仕 要である。 できる環境を け市としてス 目 スポーツ協 や公民館 ークル、ス は、 地域移行 を伺う。 市 組 受 が



報伝

60 無 M 線

建 地 電 できる 域 0 P が いては、 ヤマンション等のが届きにくかったいては、アナログ 中でも タル防 明 一瞭に受 ラジ

ころである。

O配 L 信と同 Ι 安心 NE及びヤ ひろめ 時 に、 市 1



交換

中野香余 無所属の会

行える

災

速

報

自民党市議団

ワンストップ

となっている

市公 令基準や判断基準を記っている。令和4年度っている。令和4年度のがよりである。 各種ハザール 各種ハザール 及び防災ラジオ販売に安心ひろめーるの登録 周 を作 知し イベント等に 学校や地 している 防災や福 7 市 ドマップ、 全ての いる。 域 において、咽での出 か。

Þ

